舞台芸術学科
舞台デザインコース
カリキュラムツリー

★社会実装科目　★必修科目　★コース必修科目

舞台デザイン系
【職種】舞台美術家、照明、音響プラン、衣装デザイン
【企業名】劇団四季、金井大道具、つむら工芸、日本ステージ、株式会社シーエイティプロデュース、オリエンタルランド、松竹衣装

舞台スタッフ系
【職種】舞台監督、照明音響スタッフ、劇場管理スタッフ、大道具製作
【企業名】劇団四季、金井大道具、つむら工芸、CAT、シーエスエス総合舞台、オリエンタルランド、ピーエーシーウエスト、宝塚舞台

マネージメント／サービス系
【職種】企画制作、広報、営業、接客、AD、各種総合職
【企業名】団四季、る・ひまわり、マザーシップ、ユナイテッド＆コレクティブ、カクイチ、FOOLENLARGE

4 後期
★卒業研究・制作

4 前期
★卒業研究・制作プランニング

3 後期
- 舞台応用演習Ⅰ
- 演習系：総合演習・アドバンストⅡ
- 演習系：舞台表現演習Ⅳ
- 講義系：舞台作品研究応用Ⅱ
- 講義系：舞台作品研究応用Ⅳ
- 舞台応用演習Ⅱ
- ★総合演習・スタッフワークⅡ

3 集中
- グローバル・スタディⅠ
- インターンシップ

3 前期
- 総合演習・アドバンストⅠ
- 総合演習・パフォーマンスⅢ
- 舞台作品研究応用Ⅰ
- 舞台作品研究応用Ⅲ
- 総合演習・舞台美術Ⅱ
- ★キャリア研究B
- 総合演習・照明Ⅱ
- 総合演習・音響Ⅱ
- インターンシップ

2 後期
- 舞台表現演習Ⅱ
- 総合演習・パフォーマンスⅡ
- 舞台芸術論Ⅱ
- ★総合演習・スタッフワークⅠ
- ★舞台デザイン演習Ⅱ

2 集中
- 舞台表現特講Ⅰ
- 舞台作品特講Ⅰ
- グローバル・スタディⅡ
- 舞台デザイン特講Ⅰ
- 舞台デザイン特講Ⅱ
- 舞台デザイン特講Ⅲ
- 舞台デザイン特講Ⅳ

2 前期
- 舞台表現演習Ⅰ
- 総合演習・演技Ⅰ
- 総合演習・パフォーマンスⅠ
- 舞台表現演習Ⅲ
- 舞台芸術論Ⅰ
- プロフェッショナル研究
- ★舞台デザイン演習Ⅰ
- 総合演習・舞台美術Ⅰ
- 総合演習・照明Ⅰ
- 総合演習・音響Ⅰ

1 後期
- 舞台基礎演習Ⅹ
- 舞台基礎演習Ⅴ
- 舞台基礎演習XII
- 舞台基礎演習Ⅷ
- ★舞台基礎演習ⅡABC
- ★舞台表現ワークショップⅡ
- ★舞台芸術概論Ⅱ
- 舞台作品研究基礎Ⅱ
- 演劇史Ⅱ
- 舞台作品研究基礎Ⅲ
- ★舞台基礎演習Ⅵ

1 前期
- 舞台基礎演習Ⅸ
- 舞台基礎演習Ⅶ
- 舞台基礎演習XI
- 舞台基礎演習Ⅲ
- ★舞台基礎演習Ⅰ
- ★舞台表現ワークショップⅠ
- ★舞台芸術概論Ⅰ
- 舞台作品研究基礎Ⅰ
- 演劇史Ⅰ
- ★舞台基礎演習Ⅳ

演技・演出系　領域横断系　舞台デザイン系

【1-b】

舞台芸術学科　カリキュラムマップ

人 材 育 成 目 標（学科）

本学科では、ナレッジ＆フィロソフィー科目群（講義）、トレーニング＆プラクティス科目群（演習）、クリエーション＆プレゼンテーション科目群（発表公演）、キャリア科目群の中から各学年の目標に応じて体系的に科目を編成し、DPに掲げる専門領域の技能や知識を修得していきます。

1）所属するコースでの学びを核としながら、特に初年次においては、総合芸術である「舞台芸術」を形成するすべての領域を〈トータルに学ぶ〉ことで基礎力を修得する。
・〈トータルに学ぶ〉ことにより、集団制作の場で、他者（他領域）を理解し、高い相乗作用を発揮できる能力を身につける。
・〈トータルに学ぶ〉ことにより、一つの物事を多面的に観察、考察できる能力を身につける。
・〈トータルに学ぶ〉ことにより、体験的に適性のある領域を選択し、目標設定できる。
2）2，3年次においては、クリエーション＆プレゼンテーション（発表公演）とトレーニング＆プラクティス（演習）を反復的に組み合わせた授業を展開することで、プロフェッショナルな舞台人として必要な技能とコミュニケーション能力を的確に身につける。
3）4年次においては、学生が主体的に企画する公演活動や研究活動（「卒業研究」）を通して、舞台人として、また社会人として必要とされる真の自主性や協調性を実践的に身につける。
4）2年次は演技・演出コース／舞台デザインコース合同、3年次はコース毎に開講しているキャリア授業では、段階的に業界研究やロールモデル研究を行うことで、能動的に自身の進路を選択し、目標に向かって行動できる知識や能力を身につける。
5）3，4年次生には、本学科が提携している舞台関連の企業や団体でのインターンシップ参加を推奨している。プロフェッショナルな現場を体験することで社会性と高い専門性を身につけると同時に自らの将来的な適性を問う機会とする。
6）2，3年次生には、英語圏から講師を招聘して開講している「専門英語」の履修、または海外協定校との交流活動を主とした学科主催、大学主催の海外研修への参加を推奨し、国際的視野の獲得と英語の習得を目指している。

創造力				人間力		
広い視野から関心ある課題を選択することができる。また選択した課題に対して深く追求することができる。	あらゆる情報や事象、自らの経験や知識と自身の課題との関係性を分析、整理して自らの意見を見出すことができる。	広い視野から考察した情報を想像力を駆使して表現に繋がるものへと転換し構成していくことができる。	思考や感情を身体や言語を駆使して社会に向けて発信できる。または視覚的、聴覚的にデザインし具象化できる。	表現や言動を発信するために、積極的かつ実際的に社会に働きかけることができる。	目標に向かって必要と思われることを実践する意欲と意志を保持することができる。	集団で共通の目標を達成する過程で、他者の表現や言動を自身を鼓舞する原動力として受け入れることができる。また他者に対し説得力ある表現や言動ができる。

科目名	授業種別	履修学年・学期					単位 必修	単位 選択	テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力
舞台芸術概論Ⅰ	講義	1	2	3	4	前期	2		「言語芸術」としての舞台芸術	そもそも「舞台芸術」とは、何を指しているのか?そこにはどんなジャンルが含まれ、どのような芸術としての可能性を持ち、どのような限界を抱え、いまどこに向かおうとしているのか?――この授業では、こうした基本的で、本質的な問いを念頭におきながら、舞台芸術を構成する原理・構造や歴史的背景について、演劇・ダンス・パフォーマンス・アートはもちろん、ときには映画などの隣接領域も参照しながら、できるだけ多くの映像資料をもとに概観する。また、今年度の舞台芸術研究センターの活動との連動も積極的にはかっていくが、特にギリシャ悲劇から近現代劇における劇テキストの構造、伝統演劇と現代演劇のつながりなどに関しては、重点的に取り上げていく。	舞台芸術の大きな歴史を各自の問題意識の中で捉え直し、それをまとまった文章として表現することができるようになること。	30 60	40 80	0	0	0	30 60	0
舞台芸術概論Ⅱ	講義	1	2	3	4	後期	2		「身体表現」としての舞台芸術	そもそも「舞台芸術」とは、何を指しているのか?そこにはどんなジャンルが含まれ、どのような芸術としての可能性を持ち、どのような限界を抱え、いまどこに向かおうとしているのか?――この授業では、こうした基本的で、本質的な問いを念頭におきながら、舞台芸術を構成する原理・構造や歴史的背景について、演劇・ダンス・パフォーマンス・アートはもちろん、ときには映画などの隣接領域も参照しながら、できるだけ多くの映像資料をもとに概観する。また、今年度の舞台芸術研究センターの活動との連動も積極的にはかっていくが、特に19世紀後半から今日に至るまでの舞踊芸術に関しては、重点的に取り扱う。	舞台芸術の歴史のなかで、特に重要なトピックを各自の問題意識の中で捉え直し、それをまとまった文章として表現することができるようになること。	30 60	40 80	0	0	0	30 60	0
舞台作品研究基礎Ⅰ	講義	1	2	3	4	前期		2	現代演劇の「起源」――映画との比較のなかで	現代の私たちが「演劇」や「ダンス」に抱いているイメージはどのようなものか。また、そうしたイメージは、どのような歴史的プロセスを経て生まれてきたのか。ここでは、舞台と密接にかかわる隣接ジャンルである「映画」の誕生と発展を比較対象としながら、そうしたテーマについて考えていく。できるだけ多くの記録映像（舞台）や映画を、全編通してみた上で、分析し、ディスカッションを行っていく。	舞台芸術の多様性を具体的に理解し批評的視点を持つことができる。	30 60	20 40	20 40	0	0	30 60	0
舞台作品研究基礎Ⅱ	講義	1	2	3	4	後期		2	ドラマトゥルギ――「ドラマ」はいかにして「ドラマ」たりえているのか	舞台芸術作品を見ていくとわて、「ドラマトゥルギー（＝ドラマの構成法）」という観点は重要である。古典的な規則にのっとったドラマもあれば、それを解体しようとする反＝ドラマも存在する。ここでは、「ドラマ」と「物語」、またはそれに対するオルタナティヴ（＝別の方法）といった観点から、さまざまな舞台の記録映像および関連する映画作品を取り上げながら、多種多様な「舞台作品の成立の仕方」について考えていきたい。	「ドラマトゥルギー」をめぐって多角的・多面的に分析するための方法を知り、それに基づいた論述ができる。	30 60	20 40	20 40	0	0	30 60	0
舞台芸術論Ⅰ	講義		2	3	4	前期		2	文化装置としての演劇	演劇が文化であれば、固有の文化を共有する集団ごとに、演劇のスタイルが違ってもいいはずである。しかし、ヒトとして「他者に分ける」という文化装置は変わらない。この講義ではヒトは何を、いつ、どこで、どのように表現しようとしているのか考察していく。	固有の文化における演劇の起源と真意について理解し、自らの「演劇」と重ね合わせて考察することができる。	20 40	20 40	20 40	0	20 40	20 40	0
舞台芸術論Ⅱ	講義		2	3	4	後期		2	現代日本の「演劇」	現代日本の「演劇」を考える上で、どうしても知っておかなければいけないテーマについて、歴史的な視点から検討していく。関連する記録映像をできるだけたくさん参照していきたい。また、京都を拠点に世界的に活躍している三浦基氏（劇団地点主宰・演出家）を招き、実作者の視点から、現在日本のパフォーミングアーツの可能性について、3回に亘ってレクチャーを行う。	現代日本の演劇とその隣接領域について、幅広い知見とパースペクティヴを獲得し、独自の視点に基づいた論理的分析ができる。	0	20 40	30 60	0	20 40	30 60	0
舞台作品研究応用Ⅰ	講義			3	4	前期		2	グローバル社会における演劇と異文化交流	本授業ではギリシャ悲劇やシェイクスピア作品に代表される西洋古典演劇の概要を学んだ上で、沖縄を含む「日本」の翻案舞台を中心に、東西演劇交流の視点から舞台芸術について考察していく。また、授業では講義だけではなく、課題としたテキスト及び授業中に紹介するビデオを元にしたディスカッションやグループ・プレゼンテーションも取り入れていく。	1）東西演劇交流史的な視点を学び、それに基づいた論述ができる。 2）演劇作品が持つ社会性、今日性を探りだし、演劇、または演劇的現象について、自分自身の言葉に置き換えて論述できる。	30 60	30 60	0	0	0	40 80	0
舞台作品研究応用Ⅱ	講義			3	4	後期		2	「能」とはいかなる演劇なのか――現代演劇という窓から	「能は演劇か否か」という、現在もなお払拭されてはいない不毛な問いかけを超えて、かかげたテーマのように、能がいかなる演劇なのかを、現代の舞台芸術を窓口にして考える。 さいわい、戦後、能は他の舞台芸能のみならず、他の芸能分野から関心を集めることが多かったこともあって、現代演劇からの能についての発言も少なくないので、そうした言説を手がかりに講義をすすめる。	能についての最小限の「正しい」「体系的な」知識の獲得し、独自の視点に基づいた論述ができる。	30 60	30 60	0	0	0	40 80	0
舞台作品研究応用Ⅲ	講義			3	4	前期		2	短編戯曲を書く	戯曲という形式の特性について学んだ上で、短編戯曲を執筆する。また、執筆した作品のリーディングを行う。さらにお互いの作品を合評する場も設ける。沢山の人の意見を聞くことで自分の作品を客観的に見る視点を養なってゆく。数週間ごとに教員より課題が出される。その課題に沿った作品を創作する。執筆は授業外の時間でするのが基本だが、完成しなかった場合は授業内で教員の指導を受けつつしてもよい。最終的には3～5本程度の短編戯曲を創作する。	短編戯曲を書くことができる。また、自らの作品について論評し、批評的な視点を持つことができる。	0	0	20 40	20 40	30 60	30 60	0
舞台作品研究応用Ⅳ	講義			3	4	後期		2	中編戯曲を書く	戯曲という形式の特性について学んだ上で、中編戯曲を執筆する。また、執筆した作品のリーディングおこなう。また創作に入るまでの助走として、次のことも学ぶ。名作とされる戯曲の特性を学ぶ。古代から受け継がれる物語のパターンを学んだり、それをどうアレンジして現代でも通用する作品にするかを学ぶ。戯曲の設計図である「箱書き」の書き方を学ぶ。また現実社会に目を向け、そこから創作のヒントを得るためのワークショップなども予定している。	既存の名作と比較検討しながら中編戯曲を書くことができる。また、自らの作品について論評し、批評的な視点を持つことができる。	0	0	20 40	20 40	30 60	30 60	0
演劇史Ⅰ	講義	1	2	3	4	前期		2	演劇史の基礎	舞台芸術の中でも、とりわけ2500年の歴史を持つといわれる演劇の歴史を中心に概観し、特に舞台芸術に関わるうえで欠かせない作品やキーワードを理解する。基本的には西欧と日本の演劇の展開を時系列に追うが、随時その他の地域の演劇にも言及する。なぜその表現方法が生じたのかを、時々の社会や文化の状況と共に考えていく。	古今東西の様々な舞台芸術を享受し、それに基づいた独自の論述ができる。	35 70	35 70	0	0	0	30 60	0
演劇史Ⅱ	講義	1	2	3	4	後期		2	演劇史研究の諸問題	演劇史は様々な史料によって書かれ、研究者によって時に読み直されたり書き換えられたりする。この講義では日本の近現代演劇を中心に取り扱い、上演作品の歴史的背景や初演の様子を自ら知る方法を身につける。演劇史研究ではあまり主流にはなってこなかった分野やアジアの演劇史も取り上げ、多様な文化が共存する世界のあり方を考えていく。	日本の近代演劇史を紐解く方法論を身に着け、独自の視点に基づいた論述ができる。	35 70	35 70	0	0	0	30 60	0
舞台作品研究基礎Ⅲ	講義	1	2	3	4	後期		2	シェイクスピア演劇	シェイクスピアが戯曲を書いた背景には、エリザベス朝演劇独自の劇場・言語・文化があった。講義では、シェイクスピア作品の時代性への理解を通して、シェイクスピア戯曲が織り成す舞台の諸相を読み解く。また、英語の原文と日本語の翻訳をそれぞれ検討し、上演の中で立ち上がるシェイクスピアの劇言語の面白さに触れる。そのような作品理解を経て、現代日本におけるシェイクスピア作品の意義や可能性について考察する。	現代を生きる私たちの視点から、今なお人気の根強いシェイクスピア作品の魅力を自らの言葉で論述することができる。	0	25 50	25 50	0	0	30 60	20 40
舞台作品特講Ⅰ	講義		2	3	4	前期		2	オリジナル戯曲の創作	上演を目的として、オリジナルの戯曲を創作する。劇作の方法論を学び、自らの発想と結びつけることでオリジナル戯曲を完成させる。夏期集中の短期間で、短編～中編の創作を目標にする。また、執筆した作品のリーディングを行う。さらにお互いの作品を合評する場も設ける。沢山の人の意見を聞くことで自分の作品を客観的に見る視点を養なってゆく。執筆は授業外の時間でするのが基本だが、完成しなかった場合は授業内で教員の指導を受けつつしてもよい。	授業内で提示される方法論を手掛かりに、短編～中編の戯曲を書くことができる。また、自らの作品について論評し、批評的な視点を持つことができる。	40 80	40 80	20 40	0	0	0	0
舞台基礎演習ⅠABC	演習	1				前期	2		演技・演出／スタッフワーク基礎	この科目は〈舞台デザイン〉と〈演技〉の2つの異なる授業で構成されている。 〈舞台デザイン〉 安全ライセンス講習＋春秋座説明講習＋工具実習 〈演技・演出〉 テキスト（戯曲）を演出家、俳優として読み解き、表現する方法論を体験的に学ぶ。	在籍するコースの枠組みを越えて、春秋座、またstudio21で安全に作業することができる。 また、詩や短編小説などをモチーフとした短い劇をグループで創作し、舞台化することができる。	30 60	0	20 40	0	20 40	30 60	0
舞台基礎演習ⅡABC	演習	1				後期	2		演技・演出／スタッフワーク基礎	この科目は〈舞台デザイン〉と〈演技〉の2つの異なる授業で構成されている。 〈舞台デザイン〉機材機器講習＋劇場作業実習 〈演技・演出〉テキスト（戯曲）を演出家、俳優として読み解き、表現する方法論を体験的に学ぶ。	在籍するコースの枠組みを越えて、音響、照明機材を使っての基本的作業が適切にできる。 また、既存の短編戯曲を上演台本として舞台化し、劇場で発表することができる。	30 60	0	20 40	0	20 40	30 60	0
舞台基礎演習ⅢAB	演習	1	2	3	4	前期		2	演技基礎――モノローグを演じる	演じるための基礎的プロセスを体験的に学ぶこの授業は、以下の3つから構成されている。 1. 発声や演技メソッドに基づいたエクササイズを繰り返し行うことで俳優としての心身のつくり方を体系的に学ぶ。 2. 俳優としての戯曲の読解法を学び、自分の演じる役について考察する。 3. 1と2で習得したことを意識的に結び付け、モチーフのモノローグを一人ひとりが演じる。 またこの授業では、「他人の演技を見る」スキルも学んでいく。「アクション」、「テンポ」、「強弱」、「感情表現」などの具体的な視点から他者の演技を観察する力を身に着けていく。	具体的方法論を習得し、戯曲に描かれている役の姿を生き生きと演じることができる。	0	0	20 40	30 60	20 40	30 60	0
舞台基礎演習Ⅳ	演習	1	2	3	4	前期		2	舞台デザイン基礎――季節を題材とした舞台空間	芸術表現には素材、技法、創作の3つのフェーズがある。舞台デザインコースではそれぞれをデザインワーク、アートワーク、スタッフワークと認識する。この授業では素材と出会い、デザインワークを体験する。 デザインワーク（机の上で紙に描く）を体験する。studio21（1/3scale）実験を計画する。 キーワード：線を引く　絵を描く　図を読む　小さな舞台　美術　音響　照明	様々な素材の特性を理解し、素材を使ったデザインを構想することができる。	30 60	0	20 40	0	0	20 40	30 60

科目名	授業種別	履修学年・学期					単位 必修	単位 選択	テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力
舞台基礎演習ⅤAB	演習	1	2	3	4	後期		2	演技基礎 ――二人で行うシーン・スタディ	舞台表現基礎Ⅲで習得した内容を発展的に学ぶこの授業では、個人で行う発声や基礎エクササイズの継続的な実施に加えて、相手役や共演者とともに演じる力を身につけるためのコミュニケーション・エクササイズを取り入れる。また、エクササイズで習得した力と戯曲を解釈する力を意識的に結び付け、戯曲から抜粋した一場面を二人一組で演じる。 舞台表現基礎Ⅲに引き続き、「他人の演技を見る」スキルも学んでいく。二人で演じる場面を観察し、互いの「反応」のあり方を「アクション」、「テンポ」、「強弱」、「距離感」、「関係性」など具体的な視点から考察する力を身に着ける。	具体的方法論を習得し、戯曲に描かれている一場面を相手役とともに生き生きと演じることができる。	0	0	20 40	30 60	20 40	30 60	0
舞台基礎演習Ⅵ	演習	1	2	3	4	後期		2	舞台デザイン基礎――朝昼晩を題材に発想を造形	芸術表現には素材、技法、創作の3つのフェーズがある。舞台デザインコースではそれぞれをデザインワーク、アートワーク、スタッフワークと認識する。この授業では、技法を知り、アートワークを経験します。 アートワーク（装置・道具・音と光）を経験する。studio21（1/2scale）実験を計画する。 （キーワード） 客席　舞台美術　装置　道具　音を収集する　光を観察する　映像のWS	工具や機材の使い方を身に着けることで、構想したデザインを製作することができる。	0	0	30 60	30 60	20 40	0	20 40
舞台基礎演習Ⅶ	演習	1				前期		2	ダンス――表現可能な身体づくり	ジャズダンス、ストリートダンス等のメソッドを用いたトレーニングを行い、身体の可動域を広げ、動きや技といったダンスを踊るための基礎を身につける。様々な動きを通して、身体への理解と意識を広げていく。さらに、音楽と動きを合わせることで、リズム感を養い、柔軟性や瞬発力、身体をコントロールしながら自由に動かす技術を高める。	パフォーマーに必要な身体的強度と基礎技術を身につける。	20 40	0	30 60	0	0	30 60	20 40
舞台基礎演習Ⅷ	演習	1				後期		2	ダンス――ダンス表現	ダンスの基本的な テクニックを元に、「踊り」の表現方法をより発展的に学ぶ。動きを表現に繋げるプロセスを習得しながら、それぞれの表現力を生かしたダンスとは何かを探求する。さらに、音楽、空間、テーマなどの様々な状況での創造性を高め、常に自由な発想で表現する力を身につける。	パフォーマーに必要な身体技術を身につけ、自力でムーブメントを生み出せる。 また、他者の振付を自らの身体で表現することができる。	20 40	0	30 60	0	0	30 60	20 40
舞台基礎演習Ⅸ	演習	1	2	3	4	前期		1	京舞とは	日本舞踊の一流派として京都で発展してきた京舞井上流を体験的に理解する。基礎訓練に始り、期末には短い曲を舞えるようにする。 また、授業の中で、能楽や歌舞伎、文楽、他流派の日本舞踊などさまざまな古典芸能の実演やビデオ鑑賞も交えることで、日本の古典芸能の共通した特徴を知ると同時に京舞の独自性を考察する。	能や歌舞伎、日本舞踊など日本の伝統芸能について他者に伝えることができる。 特に、井上流京舞に関しては、基礎的な短い曲を舞うことができる。	30 30	0	0	0	30 30	40 40	0
舞台基礎演習Ⅹ	演習	1	2	3	4	後期		1	京舞とは	日本舞踊の一流派として京都で発展してきた京舞井上流を体験的に理解する。期末には、数曲の舞を舞台上で発表する。 また、授業の中で、能楽や歌舞伎、文楽、他流派の日本舞踊などさまざまな古典芸能の実演やビデオ鑑賞も交えることで、日本の古典芸能の共通した特徴を知ると同時に京舞の独自性を考察する。	能や歌舞伎、日本舞踊など日本の伝統芸能について他者に伝えることができる。特に、井上流京舞に関しては、いくつかの役どころを理解し、舞うことができる。	30 30	0	0	0	30 30	40 40	0
舞台基礎演習Ⅺ	演習	1	2	3	4	前期		1	ボーカル基礎	音楽劇やミュージカルなどで求められる歌唱の基礎技術を学ぶ。この授業では、正しい発声法を身につけて反復的に練習しながら、歌唱可能な音域を広げて行く。また実際のミュージカル・ナンバーを使って楽譜の読み取り方を学び、正しい音程、リズムで歌唱することを習得する。	ミュージカル・ナンバーの楽譜を読み取り、無理のない正しい発声法で歌うことができる。	30 60	30 30				40 40	
舞台基礎演習Ⅻ	演習	1	2	3	4	後期		1	ボーカル表現	音楽劇やミュージカルなどで求められる歌唱表現力を身につける。この授業では、舞台基礎演習Ⅺの内容を反復的に発展させながら、実際のミュージカル・ナンバーを使って、役どころや曲や歌詞を解釈し、歌唱の中で表現豊かに演じることを学ぶ。	ミュージカル・ナンバーを表現豊かに歌唱表現できる。			30 30	30 30		40 40	
舞台表現ワークショップⅠ	演習	1	2	3	4	前期	2		大学で学ぶということを学ぶ！ 大学で舞台芸術を学ぶということを学ぶ！	この授業では、舞台人となるべく基礎、特に「他者との協働」を体験的に学んでいく。まずはノートテイクやプレゼンテーション、グループディスカッションの方法など「ラーニング・リテラシー」をテーマにしたワークショップを体験する。さらには、舞台作品の鑑賞や舞台芸術を構成する諸要素をテーマとした多様なグループ・ワークショップを体験する。また毎回、「体験したこと」、「体験から気づいたこと、学んだこと」を振返り、「今後の活動への生かし方」を考察することで、PDCAサイクルの中で学修していくことを学ぶ。	自分の意見や能力を尊重しながら他者と協働することができる。集団制作だからこそ問われる個人の責任や自主性を理解して自学自習できる。	0	0	30 60	0	0	40 80	30 60
舞台表現ワークショップⅡ	演習	1	2	3	4	後期	2		大学で学ぶということを学ぶ！ 大学で舞台芸術を学ぶということを学ぶ！ □	「舞台表現ワークショップⅠ」の内容を発展的に学んでいくこの授業では、毎回、「照明」、「音響」、「演出」など、より専門性の高いワークショップを展開する。また、期末には、「将来の自分」について考えていく「キャリア・デザイン」のワークショップも含まれている。前期に引き続き、毎回、「体験したこと」、「体験から気づいたこと、学んだこと」を振返り、「今後の活動への生かし方」を考察することで、PDCAサイクルの中で学修していくことを学ぶ。	自分の意見や能力を尊重しながら他者と決められたテーマに向かって協働することができる。 計画性をもって、自らの将来の目標を設定できる。	0	0	30 60	0	0	40 80	30 60
舞台表現演習ⅠAB	演習		2	3	4	前期		2	演技表現――現代演劇	日本人の劇作家による現代的な作品を演じる。演出家の指示を理解し、演じることを学ぶ。また、複数の共演者とともに有機的に演じることを体験する。一つのテキストを15回の授業のなかで徹底的に稽古します。与えられたセリフは必ず憶えて稽古にのぞむようにしてください。 与えられた役の感情を自分のなかに閉じ込めず、相手役にぶつけることを重点的に学びます。15回の授業を通して、共演することの難しさと楽しさを体験します。	演出家の演出に従いながら、独自性ある演技表現ができる。共演者と有機的に演じることができる。	0	0	20 40	30 60	0	30 60	20 40
舞台表現演習ⅡAB	演習		2	3	4	後期		2	演技表現――古典演劇	非日常的で詩的な言葉で描かれた古典演劇の演じ方を学ぶ授業。この授業では今なお演じ続けられている古典演劇の代表、シェイクスピア作品を課題とする。シェイクスピア作品の歴史的背景や特徴をリサーチする他、俳優としての古典演劇の読解法を学び、演じる役を分析する。また独特の言い回しや長台詞に対応するためのスピーチや発声法、言葉の非日常性に惑わされることなく自然体で有機的に演じるためのエクササイズを体系的に行う。そしてリサーチや分析とエクササイズで体得したことを総合的に使ってシェイクスピア劇の一場面を演じる。	具体的な方法論を習得し、非日常的で詩的な言葉を有機的に演じることができる。	0	0	20 40	30 60	0	30 60	20 40
舞台表現演習Ⅲ	演習		2	3	4	前期		2	表現テクニック――殺陣の専門知識と技術	俳優の素養として習得すべく『演技』以外のテクニックを学ぶ。 日本映画黄金期を支えた時代劇。 その数ある見せ場の中でも特に印象的な演出を求められるのが殺陣である。殺陣を細分化し、その精神性や感情の流れからくる動きを『型』や『スタイル』に発展させるプロセスを身につける。また、礼法や所作、身体表現の美しさを並行課題として学び、俳優として必要な『心と体を同時に使う能力』を会得する。	殺陣技能を俳優として舞台上で活かすことができる。	30 60	0	20 40	0	20 40	0	30 60
舞台表現演習Ⅳ	演習			3	4	後期		2	ダンス作品の振付、演出、構成	ダンス作品の振付、演出にあたり、西洋と日本の様々なアプローチを実践的に学ぶ。様々なアイデアを発展させ具体的にダンスとしてアウトプットするプロセスとショウイングを重ねていく。他者の作品を見る、自分の作品を語る、そして、共同制作のために必要なコミュニケーション力を養います。	振付家として、ダンサーとして独自のダンスを生み出すことができる。	0	0	25 50	25 50	0	25 50	25 50
舞台表現演習Ⅴ	演習		2			前期		2	ボーカル表現―応用	舞台表現基礎Ⅲで習得した内容を発展的に学ぶこの授業では、既存のミュージカルナンバーを使って、バラードからアップテンポ、クラシックからポップスまで多様なスタイル、役どころの曲目を表現力豊かに演じる（歌いこなす）力を身につける。	多様なスタイルのミュージカル・ナンバーを演じる（歌唱表現する）ことができる。			30 60	30 60	20 40	20 40	0
舞台表現演習Ⅵ	演習		2			後期		2	ボーカル表現―ミュージカル基礎	「ミュージカル」の中で役を演じながら歌唱表現できる力を身につける。また、期末の小発表に向けて、ワイヤレスマイクを装着しての歌唱技術やオーケストラ演奏に合わせての歌唱表現など劇場空間で歌唱できる能力も習得する。	ミュージカル公演の中で歌唱表現することができる。			30 60	30 60	20 40		20 40
舞台デザイン演習Ⅰ	演習		2	3	4	前期		2	スタッフワーク	芸術表現には素材、技法、創作の3つのフェーズがある。舞台デザインコースではそれぞれをデザインワーク、アートワーク、スタッフワークと認識する。この授業では創作を試み、スタッフワーク（舞台・音響・照明）に挑戦する。studio21（1/1scale）実験を計画する。 <キーワード>　一冊の本　台本と企画案　会場設営　衣装（衣裳）　プレゼンテーション	舞台作品創作の進め方を理解し、企画案やデザイン案のプレゼンテーションができる。	20 40	30 60	0	30 60	0	20 40	0
舞台デザイン演習Ⅱ	演習		2	3	4	後期		2	スタッフワーク	「舞台デザイン演習Ⅰ」に引きつづき創作に挑戦する。特にデザインワークの立ち上げについて、舞台監督の役割（アートワークとスタッフワークの関連付け、作業のスムーズな移行）を学ぶ。デザインワーク、アートワーク、スタッフワーク（舞台・音響・照明）に挑戦する。 <キーワード>　音楽の上演　会場選び　進行表　模型と図面　タイムテーブル　仕込み～バラシ	プロダクション全体のデザインワークを、概観できる。	20 40	30 60	0	30 60	0	20 40	0
グローバル・スタディⅠ	演習		2	3	4	前期		1	英語で学ぶ演技	演劇界では今日、海外の演出家招聘、海外の作品招聘、海外アーティストとのコラボレーション、日本の作品の海外公演など国際交流が盛んに行われている。また演劇留学を志す人も少なくない。この授業では、そうした現状を踏まえ、欧米で演出家として活躍、現在はシンガポールのラサール芸術大学で演出家、演技トレーナーとして指導に当たっているアダム・マーブル氏を招いて英語での演技トレーニングを実施する。	国際的な視野をもって俳優として活動できる。	20 20	20 20	0	0	0	30 30	30 30
グローバル・スタディⅡ	演習		2	3	4	前期		1	英語で学ぶデザイン	舞台芸術の世界では今日、海外アーティストとのコラボレーションなど国際交流が盛んに行われている。特に舞台美術など舞台デザインの分野では、留学を志す人、海外での活動を志す人が少なくない。こうした現状を踏まえ、国際的に舞台芸術や映画の特殊小道具デザインと製作を手がけているキャロライン・ガードナー氏を英国より招いてマスク（仮面）のつくり方を学ぶ。	国際的な視野をもって舞台デザインー、クリエイターとして活動できる。	20 20	20 20	0	0	0	30 30	30 30
舞台表現特講Ⅰ	演習		2	3	4	前期		2	舞台における歌唱表現	6日間で歌唱の基本から表現までのプロセスを体験する。 授業の最後に、一人ずつミュージカルナンバーを発表する。歌唱における発声法、呼吸法、言葉の伝え方を学ぶ。声帯に負担をかけない、響きのある音色の発声法を目指す。数曲のミュージカルナンバーの課題曲のソロを研究し、役についてストーリーやキャラクターなどを多角的に考察し、歌唱における豊かな表現を高める能力を養う。	ミュージカルナンバーを役作りし、歌唱表現することができる。	0	0	20 40	30 60	0	30 60	20 40
舞台デザイン特講Ⅰ	演習		2	3	4	前期		2	舞台衣装	舞台衣装は作品のコンセプトを視覚的に表す上でなくてはならないものですが、それを届かせる為の奥行きをもたらすには一定の距離感や別のベクトルが必要となる。舞台衣装制作を通じて、身体、素材と重力、空間などの環境を捉え、デザインとして具現化する為の手法や可能性を、レクチャーとワークショップ方式で実践的に学ぶ。	与えられたモチーフを題材に舞台衣装をデザインすることができる。	0	20 40	30 60	0	30 60	20 40	0
舞台デザイン特講Ⅱ	演習		2	3	4	前期		2	舞台映像	舞台公演での映像デザインとオペレーションを念頭に、映像機材の基本的な操作だけではなく、空間に映像をうつしだすためのアイディアの出し方を、ワークショップや課題製作を通して学ぶ。 （ワークショップ）　映像撮影と編集の基礎　映像作品の鑑賞 （課題製作）　簡単なプロジェクションマッピング　テキスト読解　朗読とオペレーション	基礎的な撮影と編集の知識と技術を習得し、独自の映像作品を製作できる。	0	20 40	30 60	0	30 60	20 40	0
舞台デザイン特講Ⅲ	演習		2	3	4	前期		1	舞台照明―他領域との関係	舞台芸術は、セリフや音楽などにより音を発することにより表現されることがベースとなっている。 舞台照明と音との関わり方を実践を踏まえて学んで行く。また舞台照明家がどのような形で作品に関わっていくかを実際の現場と同じ流れで経験することにより舞台照明家の仕事を身近に感じてもらう。	音と光の関係を理解し、照明をデザインできる。	30 30	20 20	30 30	0	20 20	0	0
舞台デザイン特講Ⅳ	演習		2	3	4	前期		1	舞台音響――コンサート音響	コンサート音響の機材プランニングや、ミックスオペレーションなどの考え方を習得し、音響業務の実際の流れに沿った仕込み設営や演奏者との対話を伴うリハーサル、本番および撤収を実習する。最終的にstudio21をコンサート会場とした音作りへと発展させる。 電源、音響、聴覚についての座学 音響機材と音響システム構築についての座学 音響機材プラン、仕込み図、ロケハン、打ち合わせ等の実習 音響機材の取り扱い、接続、チューニング、操作の実習等	コンサート会場において音響技術者としてPA業務の役割を担うことができる。 電源、音響、聴覚の基礎用語を理解、説明できる。 音響機材の名称と役割を理解、説明できる。	0	30 30	0	30 30	20 20	20 20	0
総合演習・演技Ⅰ	演習		2	3	4	前期		2	studio21での演劇公演／演技演出（公演準備）	後期期間中の授業発表公演に向けて、戯曲の解釈、本読み、キャスティングまでを実施する。 劇文学の「言葉」に焦点を当て、ギリシャ悲劇のアンソロジーとも言える、ジョン・バートン、ケネス・カヴァンダー編の『グリークス』からの抜粋を用いる。 「言葉」を舞台から客席に伝える、その手立てとしての「音」の多様性を追求することは、芝居作りの根本的な課題であり、楽しみでもある。 劇文学の始祖であるギリシャ悲劇の「大きな物語」を、いかに豊かな「音」の織物として、劇場空間に展開するかを主たる課題とする。	演出家の指示に従って俳優として戯曲を理解することができる。また、自分に相応しいと思う役を選択し、キャスティングのためのオーディションに備えることができる。	0	40 80	0	20 40	20 40	20 40	0

科目名	授業種別	履修学年・学期					単位 必修	単位 選択	テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力
総合演習・演技Ⅱ	演習		2	3	4	後期		2	studio21での演劇公演／演技演出	キャスティングされた役の役づくりに始り、稽古から本番までのプロセスを体験する。 劇文学の「言葉」に焦点を当て、ギリシャ悲劇のアンソロジーとも言える、ジョン・バートン、ケネス・カヴァンダー編の『グリークス』からの抜粋を用いる。 「言葉」を舞台から客席に伝える、その手立てとしての「音」の多様性を追求することは、定居作りの根本的な課題であり、楽しみでもある。 劇文学の始祖であるギリシャ悲劇の「大きな物語」を、いかに豊かな「音」の織物として、劇場空間に展開するかを大きな課題とする。	演出家の指示を理解し、与えられた役を舞台上で表現できる。	0	40 80	0	20 40	20 40	20 40	0
総合演習・演技Ⅲ	演習			3	4	前期		2	春秋座での演劇公演／演技演出（公演準備）	後期期間中に春秋座において実施される発表公演に向けて、戯曲の解釈、本読み、キャスティングまでのプロセスを体験する。1年を通して1本の作品に関わることで、舞台作りの現場の基礎を学び、プロの俳優の道を体験的に意識できるようにしていく。また、長期間に渡って脚本に関わることで、その背景を掘り下げる機会を増やし、読解力を深める。舞台（春秋座）公演に向けての様々な実務から俳優としての責任感を促進する。	演出家の指示に従って俳優として戯曲を理解することができる。自分自身に相応しい役割を選択し、それぞれ的確に与えられた仕事をこなすことができる。	0	0	0	40 80	20 40	20 40	20 40
総合演習・演技Ⅳ	演習			3	4	後期		3	春秋座での演劇公演／演技演出	公演に向けて、与えられた役を解釈し、舞台上で表現するまでのプロセスを体験する。1年を通して1本の作品に関わることで、舞台作りの現場の基礎を学び、プロの俳優の道を体験的に意識できるようにしていく。また、長期間に渡って脚本に関わることで、その背景を掘り下げる機会を増やし、読解力を深める。舞台（春秋座）公演に向けての様々な実務から俳優としての責任感を促進する。	演出助手、制作、俳優など自身の選択した役割を大劇場での公演活動の中で果たすことができる。	0	0	0	40 120	20 60	20 60	20 60
総合演習・照明Ⅰ	演習		2	3	4	前期		2	舞台照明―小劇場公演のためのデザイン	studio21での演劇公演を念頭におき、舞台照明を実験や作業を通じて身につける。またstudio21でのダンス公演を念頭におき、舞台照明を実験や作業を通じて身につける。舞台照明は劇場照明の一分野であり、さらに劇場照明は建築照明や環境照明とも密接な関係を持つ。	具体的な作品の照明デザインを実現できる。	30 60	30 60	20 40	0	20 40	0	0
総合演習・舞台美術Ⅰ	演習		2	3	4	前期		2	舞台美術―小劇場公演のためのデザイン	studio21での演劇公演を念頭におき、舞台装置のデザイン、図面の作成、模型の作成を学ぶ。 ひとつの台本から、作り手の数だけ異なった作品が生まれます。演出家が同じ人物でも、デザイナーが変われば異なる作品が生まれます。このクラスでは、まず個々のデザイナーとして台本と向き合い、それぞれのアイデアや作品の表現を探り、追求する姿勢を、体験を通して身につけます。そして、演出家など異なる視点を持つ協同者と、共にひとつの世界を作り上げる舞台作りのプロセスを、デザイナーの視点から体験します。また、友好的な環境でアイデアやデザインを表現するディスカッションやプレゼンテーションの場を定期的に設け、舞台美術家に求められるコミュニケーション力の向上を目指します。	具体的な作品の舞台装置をデザインできる。	0	0	25 50	25 50	25 50	25 50	0
総合演習・音響Ⅰ	演習		2	3	4	前期		2	舞台音響―小劇場公演のためのプラン	studio21での演劇公演を念頭に、舞台音響において必要な基礎知識を学び、studio21 の音響機材を使用した実技・実験を通じて音響プランが出来るようになることを目標とする。戯曲から想像して音楽や効果音を考え、PC 等を使用し録音や編集を行う。自分が作った音を題材に、どのように聞こえるのか、また観客にどう聞かせるのかを共に研究する。	具体的な演劇、ダンス作品の音響プランが出来るようになる。	30 60	30 60	20 40	0	20 40	0	0
総合演習・スタッフワークⅠ	演習		2	3	4	後期		2	studio21での演劇公演	studio21での演劇公演に必要なデザインワーク、アートワーク、スタッフワークを担当する。演劇公演に必要なデザインワーク、アートワーク、スタッフワークを担当する。後期始まり次第各セクションの編成を済ませ、デザイン整備（舞台美術・音響・照明）と制作作業（大道具・小道具、衣装、広報）を進める。稽古が本格化する11月以降は、小屋入り用意に集中するチームと芝居の完成を稽古場で支援するチームとに分かれ、授業内外で作業を展開する。	studio21での公演において舞台スタッフとして自らの役割を果たすことができる。	0	20 40	0	40 80	20 40	0	20 40
総合演習・照明Ⅱ	演習			3	4	前期		2	舞台照明―大劇場での公演のためのデザイン	春秋座での演劇公演を念頭におき、舞台照明を実験や作業を通じて身につける。	大劇場での具体的な公演の照明をデザインできる。	30 60	30 60	20 40	0	20 40	0	0
総合演習・舞台美術Ⅱ	演習			3	4	前期		2	舞台美術―大劇場での公演のためのデザイン	春秋座での演劇公演を念頭におき、舞台装置のデザイン、図面の作成、模型の作成を学ぶ。	大劇場での具体的な公演の舞台装置をデザインできる。	0	0	25 50	25 50	25 50	25 50	0
総合演習・音響Ⅱ	演習			3	4	前期		2	舞台音響―大劇場での公演のためのプラン	春秋座での演劇公演を念頭におき、舞台音響を実験や作業を通じて身に着ける。	大劇場での具体的な公演の音響をプランできる。	30 60	30 60	20 40	0	20 40	0	0
総合演習・スタッフワークⅡ	演習			3	4	後期		3	春秋座での演劇公演	春秋座での演劇公演に必要なデザインワーク、アートワーク、スタッフワークを担当する。春秋座での演劇公演に必要なデザインワーク、アートワーク、スタッフワークを担当する。春秋座での演劇公演に必要なデザインワーク、アートワーク、スタッフワークを担当する。後期始まり次第各セクションの編成を済ませ、デザイン整備（舞台美術・音響・照明）と制作作業（大道具・小道具、衣装、広報）を進める。稽古が本格化する11月以降は、小屋入り用意に集中するチームと芝居の完成を稽古場で支援するチームとに分かれ、授業内外で作業を展開する。	春秋座での公演において自らの役割を果たすことができる。	20 60	0	10 30	40 120	0	0	30 90
総合演習・パフォーマンスⅠ	演習		2	3	4	前期		2	studio21でのダンス公演（公演準備）	発表公演に向けて、基礎トレーニングのとダンスの創作を並行して行う。 ダンス表現に必要な身体作り、発想力、表現力などの強化を実践する。 テーマを1つまたは2つ決定し、テーマにむかって様々（演劇的、音楽的、具体的、抽象的）な視点からのアプローチを試み、ダンスにとらわれない身体表現を探求する事を実践する。	振付家としてダンサーとして独自のダンスを生み出すことができる。	0	0	25 50	25 50	0	25 50	25 50
総合演習・パフォーマンスⅡ	演習		2	3	4	後期		2	studio21でのダンス公演	発表公演に向けて、基礎トレーニングのとダンスの創作を並行して行う。 スタッフを交えたグループワークを経験し、総合芸術としての舞台製作を体現する。 テーマに沿う舞台設定を2.3用意する。そこでの照明、映像、音楽、動きの可能性を模索し、総合演出のものを中心に実践していく。	studio21でのダンス公演において振付家、ダンサーとして、または舞台スタッフとして自らの役割を果たすことができる。	0	0	25 50	25 50	0	25 50	25 50
総合演習・パフォーマンスⅢ	演習			3	4	前期		2	ダンス公演	身体性に基づく衝動と客観性を持ったコンセプトを作品づくりの中に両立させることを学びます。 個人として何ができるか、あるいは集団として今の舞台芸術に必要なものは何か、というところの立ち上げから、公演本番までにどのような練習を積むのか、どのようなリサーチが必要か、誰に手伝ってもらうか、必要な機材やメディアはあるのか、などの計画と実行。 アイデアを他者と共有するためのプレゼンテーション、繰り返し上演する場合のテクニカルライダーの作成、作品を記録してアーカイブする方法。 これらを並行して創作の現場で学ぶことによって、発想や直感が形となっていくプロセスを体験し、舞台芸術の可能性を広げることに取り組みます。	ダンス公演において演出家、振付家の指示を理解し、ダンサーとして、または舞台スタッフとして自らの役割を果たすことができる。	10 20	10 20	20 40	10 20	20 40	20 40	10 20
総合演習・アドバンストⅠ	演習			3	4	前期		2	studio21での実験演劇公演（公演準備）	後期期間中の発表公演に向けて、作品創作を行う。この授業では、既存の方法論や考え方にこだわらず、パフォーマーとして、舞台スタッフとして新たな舞台芸術の在り方を更新しながら作品づくりを実践する。また、既存の戯曲を使用せず、またオリジナルの戯曲を書くこともせず、戯曲を使わずにどのようにして演劇を作ることができるかを学ぶ。このことは、「何が演劇か」「演劇は何をするのか」をゼロから考え直すきっかけとなるだろう。既存の方法論を使わないという事は、演劇の根源に向かおうとする行為である。授業では、ドキュメンタリーやフィールドワークの方法論を応用するところから始める。舞台（春秋座）公演に向けての様々な実務から俳優としての責任感を促進する。	各々の役職において柔軟な発想と表現方法を獲得し、他者に向けて自身の考えや表現を提案することができる。	0	0	25 50	25 50	0	25 50	25 50
総合演習・アドバンストⅡ	演習			3	4	後期		2	studio21での実験演劇公演	「総合演習・アドバンストⅠ」での成果物を発展させ、劇場空間での具体的な成立を目指す。この授業では、既存の方法論や考え方にこだわらず、パフォーマーとして、舞台スタッフとして新たな舞台芸術の在り方を更新しながら作品づくりを実践する。また、既存の戯曲を使用せず、またオリジナルの戯曲を書くこともせず、戯曲を使わずにどのようにして演劇を作ることができるかを学ぶ。このことは、「何が演劇か」「演劇は何をするのか」をゼロから考え直すきっかけとなるだろう。既存の方法論を使わないという事は、演劇の根源に向かおうとする行為である。授業では、ドキュメンタリーやフィールドワークの方法論を応用するところから始める。また、舞台スタッフは、「機材」から発想するのではなく、物、光、音、などの「起点」からどのようなスタッフワークが可能かを考える。	各々の役職において、新たな価値観をもって作品を創造し、観客に向けて発信できる。	0	0	25 50	25 50	0	25 50	25 50
総合演習・ミュージカルⅠ	演習			3		前期		3	春秋座におけるミュージカル公演（公演準備）	後期末の発表公演に向けて、1年を通してミュージカルを創作していくプロセスを体験する。この授業では、作品を「演技」、「ダンス」、「ボーカル」に分けてそれぞれのパーツを習得する。	与えられた役のそれぞれのパーツ（演技、ダンス、ボーカル）を表現することができる。			25 75	25 75		25 75	25 75
総合演習・ミュージカルⅡ	演習			3		後期		3	春秋座におけるミュージカル公演（公演準備）	期末の発表に向けて、総合演習・ミュージカルⅠで習得した「演技」、「ダンス」、「ボーカル」を作品としてつなぎ合わせ、与えられた役を演じる能力を身につける。また、大劇場において多くの観客を引き付けることができるミュージカル俳優としての技術と能力を身につける。	演出家の指示に従い、ミュージカル俳優として舞台上で表現することができる。			25 75	25 75	25 75	0	25 75
プロフェッショナル研究	講義		2	3	4	前期		2	アート・マネージメント	公演を実施するにあたり避難訓練を含む観客対応や劇場に提出する書類や企画書の書き方を学ぶ。 また、プロフェッショナルな劇場制作者を招いて、社会の中での劇場のあり方や制作者の仕事に関する話を聞く。舞台芸術のマネージメントを学ぶことを通して、「社会で働く」ための汎用能力を身に着けるとともに、自らの進路を具体化していく糸口にする。	発表公演等において制作者として役割を果たすことができる。公演等の企画者として自身が意図することを具体的に論述することができる。	30 60	0	0	0	20 40	20 40	30 60
舞台応用演習Ⅰ	演習			3	4	後期		2	俳優の仕事	自分の課題に応じた戯曲を自ら選択し、主体的に俳優としての仕事のプロセスを踏んでいくことを学ぶ。 まずは、自分の演技の課題と向き合うことから始める。次に、課題を乗り越えるために適切だと思えるテキスト（戯曲）を探し、演じるシーンと役を選択する。役作りに始まる「役者の宿題」を一つ一つこなし、最終的に、授業内でシーン発表を行う。	俳優としてのプロ意識を持って卒業制作公演に臨む準備ができる。	0	20 40	0	30 60	20 40	30 60	0
舞台応用演習Ⅱ	演習			3	4	後期		2	舞台スタッフの仕事	舞台デザイナーあるいは劇場芸術家または技術スタッフとして働くことの実際を学ぶ。デザイナーもしてスタッフとして、各々の仕事のプロセスを主体的に踏む心構えを見習う。各専任のラボでは自主公演自主公演あるいは卒業研究において、どんな「企画と演出」を実現したいか発言できるようになるために、いくつか実際の公演や上演を授業の題材とする。	舞台スタッフとしてのプロ意識をもって卒業制作公演に臨むことができる。	0	20 40	0	30 60	20 40	0	30 60
キャリア研究A	演習			3	4	前期		2	〈演技・演出コース〉将来に向けてのセルフ・マネージメント	まずは、アーカイブ展に向けての振返りや成果物製作のワークショップを行う。さらには、振返りでまとめた内容を卒業後の進路にどのようにつなげていくのか、グループ・ワークショップをしながら共有する。その中では、演じること、演出することを通して何を習得したのか、また習得したことをどのように社会に還元できるのか、各自が明確にしていく。より具体的に将来を見据えるために、一般企業向けの仮想「エントリー・シート」の作成や俳優としての仮想「オーディション」、ファシリテーションなども体験する。	志望する道に進むための具体的準備ができる。	30 60	20 40	0	0	20 40	30 60	0
キャリア研究B	演習			3	4	前期		2	〈舞台デザインコース〉〉将来に向けてのセルフ・マネージメント	舞台デザイナーあるいは劇場芸術家または技術スタッフとして働くことの実際を学ぶ。インターンシップの計画、業界研究・企業研究に取り組む。 〈共通授業〉 学習成果振り返り ヴィジュアル資料化　展示などプレゼンテーション 〈専門ラボ〉 各専任教員の専門領域を中心とした演習授業	卒業後の進路が具体的である。また、自分の望む道に進むための準備方法を心得ている。	30 60	20 40	0	0	0	30 60	20 40
卒業研究・制作プランニング	演習				4	前期	4		卒業制作公演の企画と稽古、または論文や戯曲執筆準備	これまでの学習成果を基本に、演劇やダンス、パフォーマンス作品等の発表公演（「卒業制作公演」）の実施を目指し、上演作品を企画検討する。さらには、一人一人が自主的に参加企画と役職を選択して稽古に取り組む。または、舞台芸術に関連する研究論文や戯曲を執筆する（「個人研究」）準備をする。	卒業制作公演：卒業制作公演に向けて、役職を選択し、自身が選択した企画の共演者やスタッフと協働して準備ができる。 個人研究：論文執筆に向けて、テーマを明確にし、文献等による調査ができる。または、戯曲執筆に向けてテーマを明確にし、箱書きが作成できる。	25 100	25 100	0	0	50 200	0	0
卒業研究・制作	演習				4	後期	4		卒業制作公演の上演、または論文や戯曲の執筆	卒業制作公演：前期中に実施した実験公演の成果と課題を踏まえて、計画的に稽古とプランニングを重ね、学内の劇場等で卒業制作公演を実施する。 個人制作：前期中に実施した調査を踏まえて、論文や戯曲の完成へ向けて計画的に執筆を行う。 上記いずれの形式においても、卒業研究の完成を4年間の集大成とすると同時に社会への第一歩と位置付ける。	卒業制作公演：上演作品において他者と協働しながら個人の能力や技術を発揮し、公演の成立に貢献できる。 個人研究：自身の選択した研究テーマを追求し、自身の考えを反映させた論文や戯曲を執筆できる。	0	0	25 100	50 200	0	0	25 100

合計	20	118

	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力
ポイント計	1810	1750	2140	2060	1695	2845	1530
比率	13.1%	12.7%	15.5%	14.9%	12.3%	20.6%	11.1%